

家族（きょうだい）支援の視点とは ～本人支援と環境からみる支援～

家族支援の視点を活かした個別支援の実践

令和7年度 大阪府障がい児等療育支援事業専門研修会

NPO法人サポートグループほわほわの会 代表理事
かざみどり相談室 主任相談支援専門員
宮崎充弘

なぜ「家族支援」が重要なのか

児童支援において、私たちはつい本人だけに目を向けがちです。しかし、子どもの発達や日々の生活は、家族との関係性の中で育まれていきます。家族全体の安心と安定こそが、本人の心の安定につながる土台なのです。



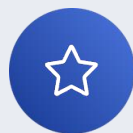
関係性の中で育つ

子どもの発達・生活は家族との関係性の中で育れます。本人を理解するには、家族という環境を理解することが不可欠です。



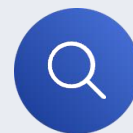
家族の安定が鍵

家族全体の安心・安定が、本人の情緒の安定につながります。家族が疲弊しては、本人への支援も行き詰まります。



きょうだいの存在

きょうだいも『見えないケアラー』『沈黙する支援者』になりうる存在です。その思いや負担に気づくことが大切です。



全体を見る視点

支援者には『家族全体』を見る視点が求められます。本人支援と家族支援は切り離せない関係にあります。

家族支援を意識したアセスメントの視点

アセスメントは支援の出発点です。本人中心の視点を大切にしながらも、家族の構造や機能、関係性を丁寧に把握していくことが求められます。

家族の構造と機能を把握する

- 誰が主に支えているか、役割分担はどうなっているか
- 家族内の緊張や葛藤の有無を確認する
- きょうだいの年齢や生活状況、内面の思いを知る
- 支援につながっている社会資源や相談先の状況

『家族の今』を丁寧に聴き取る

本人に影響する『家族の今』を丁寧に聴き取ることが大切です。家族の語りの中には、表面的な困りごとだけでなく、深い願いや葛藤が隠れています。

急いで解決策を提示するのではなく、まずは家族の思いや状況を受け止めることから始めましょう。

 **ポイント:** 家族の語りには、本人の状態だけでなく、家族自身の疲労や不安、きょうだいへの心配など、多層的なニーズが含まれています。

ニーズ整理の視点

課題ではなく『願い』に注目する

家族が語る困りごとの背景には、必ず願いがあります。例えば・・・「疲れている」という言葉の裏には休息のニーズが、「きょうだいに申し訳ない」という言葉の裏にはきょうだいへの配慮のニーズがあります。課題として捉えるのではなく、願いとして受け止めることで、支援の方向性が見えてきます。



「疲れている」

→ 休息のニーズレスパイトや相談の場が必要



「きょうだいに申し訳ない」

→ きょうだいへの配慮のニーズきょうだいの時間や居場所が必要

「将来が不安」

→ 見通しと安心のニーズ情報提供や計画的な支援が必要

 本人支援と家族支援がバラバラにならないように整理することが重要です。本人の成長と家族の安定は、互いに影響し合う関係にあります。

個別支援計画の作成ポイント

本人支援と家族支援を"つなぐ"設計

個別支援計画は、本人と家族をつなぐ設計図です。本人への支援が家族の安定につながり、家族の安定が本人の成長を支える。この循環を意識した計画づくりが求められます。

本人→家族→本人の循環を意識

本人の成長が家族の喜びになり、家族の安定が本人の安心につながる。この好循環を生み出す支援計画を目指します。支援の効果が、家族全体に波及していくイメージを持ちましょう。

定型文ではなく具体的な目標やエピソード

「家族の負担を軽減する」といった抽象的な表現ではなく、「月に1回、母が趣味の時間を持てるようレスパイトを利用する」など、具体的で測定可能な目標を設定します。

きょうだいの支援ニーズも記載

きょうだいの年齢や生活状況に応じて、きょうだいへの配慮も計画に含めます。「きょうだいが安心して過ごせる時間を確保する」など、きょうだいの視点を忘れずに。

記述例

「きょうだいとの関係性を大切にし、家族全員が安心して過ごせる時間を増やすため、月に2回の余暇支援を利用し、きょうだいと保護者が過ごす時間を確保する」

モニタリングの視点

家族の変化も定期的に確認する

モニタリングは、計画の効果を確認し、必要に応じて見直すための重要なプロセスです。本人の変化だけでなく、家族の生活状況や思いの変化も丁寧に確認していきましょう。

01

家族の生活状況や思いを確認

家族の疲労度や不安の程度、きょうだいの様子など、定期的に確認します。家族の語りから、新たなニーズが見えてくることもあります。

02

家族が支援に参加できているか

支援計画に家族が参加できているか、負担になっていないかを確認します。支援者主導ではなく、家族と協働できているかが重要です。

03

支援が本人の生活にどう影響したか再評価

支援が本人の生活にどのような変化をもたらしたか、家族の視点も含めて再評価します。数値化できない小さな変化も見逃さないことが大切です。

 **継続的な確認が鍵:** モニタリングは一度きりではありません。家族の状況は常に変化します。定期的な確認と柔軟な見直しが、質の高い支援につながります。 モニタリングの頻度や方法を工夫することが大切。

支援者に求められる視点と姿勢

家族支援を実践するためには、支援者自身の視点と姿勢が問われます。専門性だけでなく、人としての共感力や柔軟性が求められます。

家族の語りを聴く力（共感）

家族の語りには、言葉にならない思いや願いが込められています。急いで解決策を提示するのではなく、まずは丁寧に聴き、共感することから始めましょう。

きょうだいのサインへの感受性

きょうだいは自分の気持ちを表現しにくいことがあります。小さなサインを見逃さず、きょうだいの思いに寄り添う感受性が大切です。

ともに考える姿勢

支援者が一方的に答えを出すのではなく、家族とともに考え、ともに悩み、ともに喜ぶ姿勢が信頼関係を築きます。

安心した日常を共有する支援

家族全体で『安心した日常』を共有できるよう支援することが、最終的な目標です。特別なことではなく、日常の中の安心を大切にします。

きょうだい支援の重要性

きょうだいは、家族の中で特別な立場にいます。障がいのある兄弟姉妹を持つきょうだいは、時に『見えないケアラー』として、時に『沈黙する支援者』として、自分の思いを抑えていることがあります。

きょうだいが抱えやすい思い

- 親に心配をかけたくない
- 自分のことは後回しにされる
- 友達に兄弟姉妹のことを説明しづらい
- 将来、自分が支えなければならない不安
- 兄弟姉妹を大切に思う気持ちと複雑な感情

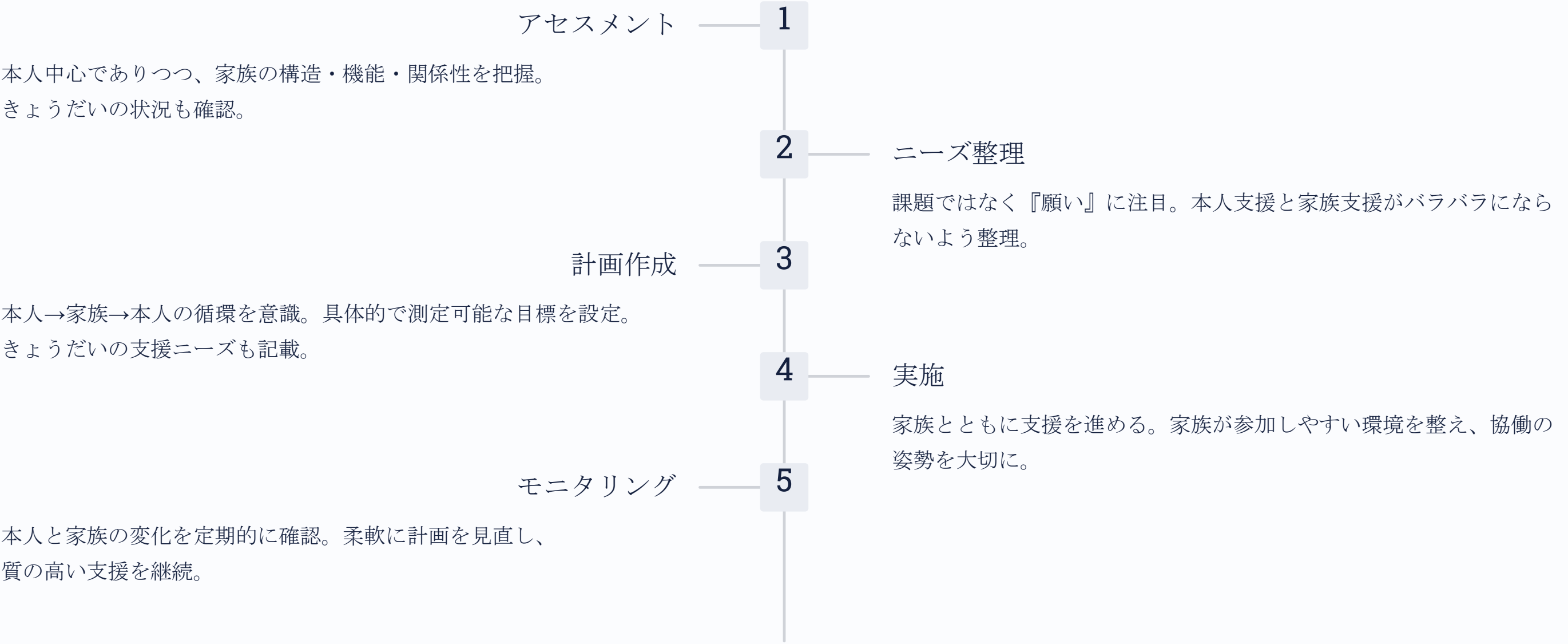
支援者ができること

- きょうだいの存在を認識し、声をかける
- きょうだいだけの時間や居場所を確保する
- きょうだいの語りを聴く機会を作る
- きょうだい支援のプログラムや情報を提供する
- 家族計画の中にきょうだいの視点を含める

きょうだい支援は、本人支援、家族支援と一体です。きょうだいが安心して自分らしく過ごせることが、家族全体の安定につながります。

実践のための具体的な流れ

家族支援の視点を活かした個別支援は、アセスメントからモニタリングまで、一貫した流れの中で実践されます。
それぞれの段階で家族全体を意識することが重要です。



まとめ

家族支援は本人支援の質を高める

本日の研修を通じて、家族支援の視点を活かした個別支援の重要性を確認してきました。家族支援は本人支援の質を高め、家族全体の安心と安定につながります。

家族支援は本人支援の質を高める

本人の成長と家族の安定は切り離せない関係にあります。
家族全体を見る視点が、支援の質を高めます。

アセスメント→ニーズ→計画→モニタリングの流れを意識

一貫した流れの中で家族支援を実践することで、継続的で質の高い支援が可能になります。

きょうだいへの視点が支援の幅を広げる

きょうだい支援は、家族全体の安定につながります。見えにくいニーズに気づく感受性を持ちましょう。

定型でなく"具体性と柔軟性"のある支援計画を

一人ひとりの家族に寄り添い、具体的で柔軟な支援計画を作成していきましょう。

ご清聴ありがとうございました

NPO法人サポートグループほわほわの会 宮崎充弘